

令和3年度事業報告書

1 令和3年度の概要

令和3年度は、令和元年度末から引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、「コロナ」という。）の拡大が断続的に続き、公益目的事業及びそれを支える収益事業とも大きな影響を受けたが、事業、法人業務の両面で対策を行い、影響の最小化に努めた。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、防災、良好な生活環境や地域交流等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。公1事業では、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。公2事業では、日本庭園の良好な保全管理とともに、京都の庭園文化の情報発信等を行った。このうち、梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理業務及び自主事業は、京都府下のコロナ対策の緊急事態宣言を受けて臨時閉園した日数（4/25～5/31、8/20～9/30の77日間）が2年度（4/9～5/17の39日間）の約2倍あり、このほか、まん延防止等重点措置（6/21～7/11、1/27～3/21）による利用制限（定員、開業時間）及び各種催事の中止等により、多大な影響を受けた。

公園収益事業では、利用料金収入、自主事業及び飲料自動販売機の販売手数料等収益は前年度からさらに減益となり、前年度受託した岡崎公園芝生再生・保護業務（単年度事業）の収益分が減収となった。

法人業務においては、評議員会を1回、理事会を2回、オンライン併用で行った。

経常収益計は、上記のとおり大幅減収となったが、事業縮小に伴う人件費の抑制や委託費の圧縮及び租税公課の減少により、正味財産期末残高はかろうじて前年度比プラスを確保し、11期連続で黒字となった。

2 令和3年度の事業実施状況

I 公益目的事業 決算額 193,877千円（予算額 202,184千円）

I-1(公1)都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 171,772千円（予算額 181,043千円）

都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。施設閉鎖等で中止とするイベントも多くあったが、定員削減や密集を避ける等の予防対策が可能なものを実施した。

(1) 園芸・造園に関する人材育成

ア 園芸講習会(前期・後期)

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。コロナ対策のため、前期は第1回を中止、第4回はテキスト・資材受渡しのみを行った。

後期は前年に引き続き、（公財）京都 SKY センターと共催し、同センター会員の参加も得て、1日2回開催。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 68人／後期 326人 ・参加者数（前期第4回除く7回）計 394人

	回	開催日	実施内容
前期	第2回	6月24日	ハンギングバスケットづくり実習
	第3回	7月15日	実生苗の寄せ植えと挿し木実習
	第4回	8月26日	（資材等受け渡しのみ）多肉植物を使った寄せ植え
後期	第1回	10月21日	秋咲き草花を使った寄せ植え実習
	第2回	11月11日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植えの作り方
	第3回	12月9日	クリスマス花飾りづくり実習
	第4回	2月10日	冬に咲く草花と寄せ植え実習
	第5回	3月10日	春咲き草花と寄せ植え実習

イ 野菜づくり講習会(前期・後期)

玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学ぶ講習会。前期、後期ともにコロナ対策のため中止した。

ウ 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により、公園花壇等の植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整え、参加者間の交流を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子 ・開催日 毎週木曜日
- ・受講者 20人 ・参加者数のべ 402人 (36回)

エ 地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化等支援事業((5)ア)や行政からの要請等により、地域団体や学校等での出張講習の開催協力及び講師を派遣した。（下表は実施例）

場所／テーマ	開催日	参加人数	備考
高倉小学校栽培委員会（中京区）／ヒオウギ講習	7月6日	22人	中京区みつばちガーデンプロジェクト
朱雀第四小学校（中京区）／植物の力、フジバカマと昆虫	7月12日、10月27日	114人	中京区みつばちガーデンプロジェクト
乾隆学区女性会（上京区）／グリーンカーテン教室	11月6日	7人	まちなみ緑化等支援、エコ学区
久我学区社会福祉協議会（伏見区）／グリーンカーテンコンテスト講評	11月22日	22人	エコ学区
西緑地北公園愛護協力会（西京区）／花壇管理・外来種駆除	11月23日	9人	緑のまちづくり支援業務
城巽自治連合会（中京区）／モデル花壇管理	11月26日	12人	緑のまちづくり支援業務
光徳学区女性会（下京区）／正月の寄せ植え	12月14日	24人	まちなみ緑化等支援
格致自治連合会（下京区）／雨庭管理	3月20日	14人	緑のまちづくり支援業務

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会、自然観察会等

自然観察会、プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き、自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。事前申込制などコロナ対策を徹底して開催したが、一部は中止した。

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解いただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ、協会職員等。

① 月例等定期の観察会

コロナ対策のため、予定していた5回を中止とした。

・各回の実施内容(計9回・参加者計87人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月17日	植物の観察 1	12月18日	植物の観察 5
6月19日	きのこの観察	1月15日	野鳥の観察
7月17日	植物の観察 2	2月19日	苔の観察
10月16日	植物の観察 3	3月19日	植物の観察 6
11月20日	植物の観察 4		

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

植物の生長を見守り、収穫などを体験する全6回シリーズ。第1回(田植え実習)はコロナ対策のため中止した。

・受講者 21人 ・参加者数のべ91人(5回)

b 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラム。

- ・開催日 原則第1・第3土曜日
- ・実施回数 計30回 ・のべ参加人数 686人
- ・特別プログラムのテーマ 水辺の生き物発見隊、古代ものづくり体験、夏休み自然教室(水辺の生きもの発見隊)、冬の星空観察、水鳥観察、野鳥観察と巣箱づくり、ロープワーク、薪割・ロケットストーブづくり、防災クイズ等

イ 環境学習養成講座

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに低利用、シカ食害等の森の問題を座学とフィールドワークで考える連続学習会。「宝が池の森」保全再生協議会の協力を得て実施。オンライン併用で開催した。

- ・共催・京都府立大学森林科学科
- ・場所 上高野防災会館等
- ・参加者 のべ 108人

回	開催日	内 容／ 講 師 (敬称略)
第 1 回	8 月 29 日	ガイドンス：宝が池の森『里山』としての魅力と課題／鎌田磨人 (徳島大学) ※コロナ対策で延期実施
第 2 回	7 月 17 日	森と水辺をつなぐいきものたち～宝が池・湿地調査／竹門康弘 (京都大学)、森川裕之 (NATURE WPRKS)
第 3 回	9 月 18 日	両生類からみる森を水辺の生態系／夏原由博 (元名古屋大、(公社)大阪自然環境保全協会)
第 4 回	10 月 31 日	森・植物を守る～シカによる被害と対策／高柳敦 (京都大学) 森の構造と植物の多様性／小川みどり (徳島大学)
第 5 回	11 月 28 日	里山再生を支える国の動き～制度・政策とその活用／西田貴明 (京都産業大学)、「宝が池の森」保全再生協議会
第 6 回	1 月 9 日	豊かで楽しい森の再生にむけて～森のビジョンと再生の手順／柴田昌三 (京都大学)

(3) 花とみどりの相談所(緑の相談所)運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する技術的な無料相談を梅小路公園で行っている。コロナ対策の影響で、相談日数が前年度(111日)よりさらに減り、面談による相談は前年度(13%)と同様、低い割合となった。

- ・相談日 毎週 2 日 (水曜日、土曜日) 及び出張相談
- ・時 間 午前 10 時～午後 4 時まで (面談又は電話による。)
- ・相談員 植村久美子ほか
- ・相談日数 103 日 ・相談件数 (内容別) 651 件 (うち面談の相談 24%)

イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都の歴史文化に密接に関係しているフジバカマ等の和の花、希少な山野草等の保全・繁殖に取り組み、普及活動を行った。この一環で、「京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の認定団体など、希少植物保全を行う団体に対してアドバイス(出張相談)、その他の協力を行った。

a 希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定団体等の相談 7 件 (うち出張 2 件)

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

- ・京都駅ビル「緑水歩廊」、京都御苑閑院宮邸前でキクタニギクを展示。11 月 20 日～12 月 2 日 (京都駅ビル開発(株)、(一財)国民公園協会京都御苑、KES エコロジカルネットワーク協力)

c 京都伝統文化の森推進協議会による東山・菊溪の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」(事務局・京都市)が 2017 年より林相改善事業の一環として、高台寺山国有林内の菊溪川支流で市民参加によるキクタニギクの植栽を行っているが、令和 3 年 3 月 12 日、コロナ対策のため、関係者約 50 人のみで実施した。当協会は、植栽のための苗を、KES 生物多様性プログラム(下記ウ)参加企業・団体の提供により確保するなどの協力を行った。

ウ KES 生物多様性プログラムへの参画

KES (京都環境マネジメントシステム・スタンダード) の認証登録を行う特定非営利法人 KES 環境機構が実施する生物多様性プログラム「KES エコロジカルネットワーク」

の企画・実施に参画している。3年度は計 262 の事業所が参加した。例年行う栽培講習会等は前年度に続き中止となり、栽培セットは本協会でも引き渡した。

- ・ネットワーク構成団体 京のアジェンダ 21 フォーラム（(公財)京都市環境保全活動推進協会）、京都市、京都駅ビル開発（株）、KES 環境機構及び本協会

エ 公益社団法人日本植物園協会の活動

（公社）日本植物園協会に加盟し、同協会が呼び掛ける希少植物保全等の活動に関し、在京滋植物園情報交換会等を通じた情報交換、相互協力を行っている。

- ・参加実績 第 56 回大会（5/26-5/28 名古屋市。オンライン参加）
第 38 回第 2 分野運営会議（1/24 札幌市。オンライン参加）

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体や京都新聞社、KBS 京都等のマスメディアとの連携を図りながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴える事業。大半が中止となった。

ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

- a 梅小路公園グリーンフェア 2021 春／秋 コロナ対策のため中止。
- b 春の和の花展、藤袴と和の花展

「春の和の花展」は 1 日のみ開催後、コロナ対策のため中止した。

「藤袴と和の花展」はコロナ対策のため中止したが、フジバカマ等と和の花の展示を、規模を大幅に縮小のうえ、「朱雀の庭」で行った。

- ・「春の和の花展」4 月 24 日のみ開催(翌日から臨時閉園) 61 人

c 梅まつり in 梅小路

梅の開花期に梅林を囲む柵を一部外し、新たに梅林散策ルートマップを制作、掲示して、自由に散策できるようにした。

- d 第 36 回京都まちとみどり写真コンクール(京都府都市計画協会主催、京都府、京都市、本協会共催) 前年度に続き中止となった。

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため、和の花や和のイメージの容器を、施設、住宅、事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や、環境対策、地域の防犯対策として、花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。（一部は(1)エに重複掲載）

- ・実施例 島原のぞみデイサービス「花矢来」の植替え・管理指導（下京区）

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により、四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）について、沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行等の普及啓発を行う業務を受託した。前年度に続きコロナの影響で、協力いただく団体・個人の活動量が減った。

- ・全面植替え 3 回、巡回管理補助のべ 56 回
- ・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 8 回、アンケート調査 1 回

(6) 緑のボランティア団体の活動支援(京都市緑のボランティアセンター)

各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための緑のボランティアセンター窓口

運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体、京都市の公園愛護協力会等に、ニュースレターや『京のみどり』等を通じた情報提供、京都市設置の和の花モデル花壇、雨庭の管理を行う団体への支援等を行った。

- ・実績 相談 34 件、団体情報発信 9 件、ニュース発行 4 件、出張相談・講習 13 件、巡回・維持管理補助 29 回

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

緊急事態宣言下においても、休養や健康づくりに役立つ屋外施設として一定の利用が見られたが、コロナ対策として、全手洗い場への石鹸設置、予防を呼び掛ける放送・掲示、巡回の強化等を実施し、安全安心に利用いただけるよう努めた。

ア 梅小路公園指定管理業務及び関連業務の受託

指定管理業務においては、一部施設の利用を制限する中、良好な維持管理水準と安全安心の確保に努めた。遊戯用電車（チンチン電車）運行業務（指定管理区域外、公園収益事業）については、令和 3 年度も京都市から受託したが、コロナ対策のため 4 月 25 日から 5 月 30 日、8 月 20 日から 9 月 26 日までの期間、運行を休止した。

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「梅小路公園・施設管理者連絡会」、「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街、自治連合会、企業、寺院、行政等で構成。）のメンバーとして、公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組に参画した。

a 梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

各公園施設の管理者が情報交換し、相互の事業の調整や協力、安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を事務局として開催した。

- ・開催日 第 25 回（各団体 1 名出席による会議）7 月 20 日、第 26 回（各団体 1 名出席による会議）1 月 18 日

- ・構成 京都市建設局（公園設置・管理者）、オリックス水族館（株）（京都水族館）、西日本旅客鉄道（株）京都支社、（公財）交通文化振興財団（京都鉄道博物館）、（株）コラボ（グリーンハウスコラボ、梅小路パークカフェ）、（株）京都駅観光デパート・（株）エーグル（市電カフェ）・（株）立誠社（市電ショップ）、（一財）京都市都市整備公社（駐車場、駐輪場）株ビバ（ビバスクエア京都）、及び本協会（公園指定管理者）

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」関連受託事業等

① ルート環境整備業務等の受託

京都駅から公園に至るルート of 環境整備を目的とする巡回、モニュメント等の清掃、案内、フラワースポット（コンテナ・地植え花壇）の維持管理等を行った。

c 「梅小路公園・冬芝を育てる会」による芝生広場のオールシーズン緑化

公園周辺の地域団体・企業（京都青果合同（株）、タキイ種苗（株）、梅小路公園花と緑のサポーターの会、京都みどりクラブ、下京区体育振興会、梅小路小学校、本協会）及び地元団体の長の賛同により「梅小路公園・冬芝を育てる会」（本政和好代表（大内学区自治連合会会長）、事務局・本協会）が「京都駅西部エリアまちづくり協議会」の補助金を活用してウインターオーバーシード手法による芝生広場のオールシーズン緑化を継続した。

d 各種イベントの開催・誘致

共催事業を実施するほか、地域団体等が主催する公益性の高いイベントは、開催協力又は誘致を行っているが、令和3年度の大規模なイベントは中止（京都市やんちゃフェスタ、下京ふれ愛ひろば等）又はオンライン開催（京都音楽博覧会 I N梅小路公園）となった。開催された主なイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市（11月、12月、2月、3月） ※協会共催事業。
4月3、4日	京都さくらよさこい
6月20日	ビー・トライブ発表会（ダンス発表会）
10月23日	醍醐味 eets（吹奏楽・ダンス発表会）
11月20日	JA京ベジフェスタ

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

臨時閉園の期間が長く、大きな影響を受けたが、開園した期間は、こまめな清掃やコロナ対策に努め、平日を含めた利用者のニーズに応えた。

エ 多世代向け事業（プレイパーク、青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

例年、毎月2回、昔遊び、集団遊び等で遊んでもらう通常プレイパークは、月1回とし、コロナ対策のため中止とした5・8・9月以外の月に開催した。

・活動日 原則第2土曜日 ・実施回数9回 ・参加者数のべ1,290人

b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者又は小学生を対象として、小人数による自然遊び等を行い、公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

・活動日 原則第2木曜日の放課後 ・実施回数10回 ・参加者数のべ265人

c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動と特別イベントを、臨時閉園や定員制限の期間を除いて実施。このほか、遠足等の団体に対するプログラムを事前予約で実施した。

① 通常プレイパーク

・活動日 原則日曜日 ・実施回数4回 ・参加者数 のべ860人

② 特別イベント

・龍狐伝説「イノシシの襲撃編」（クイズ等様々なミッションをクリアし、カードを集めるオリジナルのゲーム） 3月27日 357人

③ けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に4歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に、森の散歩やものづくり等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

・開催日 毎月第2木曜日、第2金曜日（2クラス）

・実施回数 計16回 参加者数 のべ450人

④ けむんぱ「森林向上委員会」(旧アドベンチャー)

児童と保護者（親子等）を対象に、プレイパークゾーン等の森の整備や散歩等を

通じて、参加者間のつながりを深めるプログラム。

・開催日 12月12日、3月13日 ・参加者数 のべ42人

⑤ 森カフェ(&プレイキャブ)

森に囲まれたプレイパークゾーンで子育て中の家族が悩みや情報を交換できる場。プレイキャブは自然の中で遊べる場。(共催・森のようちえんどろんこ園)

・開催日 毎月第4月曜日 ・実施回数5回(特別プログラム含む。)

・参加者数 のべ200人

⑥ 団体向けプログラム 11月19日・24日 計47人

d 青空健康づくりプログラム

① ウォーキング教室

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を(公財)京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム(運動器症候群、通称ロコモ)予防のメニューを多く採り入れた。

- ・講師 (公財)京都市健康づくり協会 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー
- ・内容 ストレッチ、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ、バランス運動、簡易体力測定、アンケート等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏クール(4～7月)	心もカラダもスッキリと。いろんな運動を楽しもう!
夏～秋クール(8月～11月)	継続は力なり。無理のない範囲でからだを動かそう!
冬クール(12月～3月)	背スジを伸ばして寒さに負けない体力づくりをしよう!

・開催日 第2・4火曜日 18回のべ654人参加(4月後～5月、8月後～9月中止)

② 梅小路芝ヨガ

広々とした公園での健康づくり、「1年を通じて緑の芝生」の良さを知っていただくための誰もが参加できるヨガ教室。

- ・開催日 11月6日 ・参加者数 計約120人(2部制)
- ・講師 Yoko Ogami、Sandra Fang

o 公園ボランティアの運営、連携、支援

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ビオトープ運営、市電車両(総合案内所等)の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 令和3年度末現在32人 ・実績 活動回数65回、参加人数のべ377人
- ・活動例 市立白河総合支援学校生徒との花壇づくり、園芸体験活動の指導等

b 梅小路公園「園芸セルフケア教室」

園芸セルフケア教室((1)アc)の参加者による園内花壇の整備活動。

c 市電車両の保全管理及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両(チンチン電車、市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両)の清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の

写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力いただいている。（市電ひろば協力会、日本路面電車同好会関西支部、伏見チンチン電車の会）

カ 社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動、公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

a 総合支援学校の社会体験活動の受入れ

梅小路公園で、市立白河総合支援学校生徒 13 人の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、6～7 月の計 6 日間、管理活動を行っていただいた。

b 学生インターン受け入れ

子どもの楽園で、京都産業大学生命科学部学生 2 名のインターンシップを受け入れ、管理運営にも生かした。（8 月 9 日～9 月 14 日）

キ 円山公園巡回・案内業務

市内有数の観光地である円山公園(国名勝)の施設、樹木の枯損等の確認、サクラ開花案内や紅葉の状況等を含む問合せ対応を京都市から受託して実施した。

ク 岡崎公園芝生広場維持管理業務

梅小路公園芝生広場等の管理経験を活かし、岡崎公園の利用の中心である芝生広場の良好な維持管理に関する業務を引続き京都市から受託した。

ケ 平安神宮神苑「平安の苑」維持管理

平安時代に詠まれた植物を展示する「平安の苑」の管理業務を継続して受託した。

コ さすてな京都(南部クリーンセンター第二工場)千両松の植樹・保全

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 『京のみどり』(季刊)の発行

緑に親しみ、歩いていただくためのマップ、緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を掲載。また、雨庭の意義と事例を紹介するシリーズ、園芸相談、当協会事業、京都市の公園緑地施策、優れた庭園等の情報を紹介した。第 100 号では、地球規模の緊急課題である生物多様性と気候変動の問題を、自然と共生してきた京都の人々の暮らし方から考える記念特集を組んだ。

- ・各号の特集の概要・テーマ抜粋

第 99 号 (夏号) 7 月発行	特集「森林に学ぶ、京都の山と暮らし」【右京区京北】 雨庭連載「京都市内に「道路型雨庭」の設置進む」
第 100 号(秋号) 10 月発行	記念特集「生物多様性と気候変動対策の先にある私たちの未来」 (京都市生物多様性プラン 2021-2030 等の意義)、特別対談「京文化の根底に息づく生物多様性、『京のみどり』100 号までの歩み
第 101 号(冬号) 12 月発行	特集「京都の人とみどりが育む伝統野菜と新京野菜」 雨庭連載「京都御苑・間之町口に新たな雨庭」
第 102 号(春号) 3 月発行	特集「紫野・北野・平野の桜 お花見ウォーキング」【北区】 雨庭連載「『天水』の恵みを防災・生活・景観・まちづくりに活かす」

・部数 各号7,000部(配布場所・配布先:市政案内所、区役所・支所、市立図書館、公園愛護協力会、全国の緑化団体等)

イ ホームページによる発信

イベント、公園施設、京都の緑の文化等の情報提供等のため、メインのホームページ(<http://www.kyoto-ga.jp/>)を運営している。アクセス件数(※)は1,020,207件(前年度比2.2%増)であった。このほか、円山公園の観光案内、深草墓園の利用案内を運営している。(海外向けに京都の庭園を紹介するサイトはセキュリティ対策のため12月から休止)

※Visits(訪問者数) 30分以内の同一IPをカウントしない実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

施設管理や情報発信の基礎資料とするため、モニタリング等の調査・情報収集を行った。

ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会のいのちの森モニタリング活動への協力を行い、開園から25年を迎えた森の変遷を記録している。生き物を紹介するパネルを掲示し、来園者にモニタリング調査の様子も紹介している。

イ 梅小路公園ウメ・サクラ毎木調査

寄附木を含め、多様な品種があるウメ・サクラの毎木調査を実施し、梅林付近の見どころマップを制作するなど、緑の情報発信の基礎的資料としている。

ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラ(GI)や雨庭の調査研究と普及を目指す「京都雨庭研究会」を事務局として運営するが、前年度に引き続き会合の開催を見送った。

また、全国の行政、民間業界の情報を得てGIの普及啓発や推進に役立てるため、「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」(事務局・国土交通省)に入会(三号会員)し、事務局の仲介で情報交換を行っており、札幌市(10/4)、名古屋市(12/24)からの相談に応じた。

I-2(公2)京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 21,545千円(予算額 21,141千円)

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的に、庭園の保全管理業務、庭園講座等への活用及び優れた庭園に関する情報発信等を実施。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、活用策としてイベント等を行った。

a 紅葉まつり

紅葉期間中の夜間活性化策として、例年好評の「朱雀の庭」ライトアップを自主事業

として実施、ホームページ等の広報、周辺施設・ホテル等へポスター、チラシを配布。

- ・期間 11月12日～11月28日（15日間） 入園者数 6,062人
（前年度入園者数 7,574人）

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、広報誌「京のみどり」、ホームページにおいて、庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。また、海外に向けた日本庭園の情報発信のため、造園関係団体と協力して英文サイトを立ち上げ、令和2年から19庭園の英文記事を掲載しているが、令和3年12月よりセキュリティ対策強化のため公開を中止している。

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a 庭園文化講座

- ・講師 吉田昌弘 ・受講者 のべ44人
- ・各回の実施内容

第1回	1月20日	(座学) 池泉の庭
第2回	2月3日	(座学) 枯山水の庭
第3回	2月17日	(座学) 池泉回遊式の庭

b 庭園ガイド活動

庭園ガイドボランティアによる、朱雀の庭・いのちの森のガイド活動で、個人向け、団体向け（予約制）として実施した。

- ・ガイド実績 計4回実施 のべ案内人数47人

c (一社)日本造園修景協会「伝統庭技研修会」研修会の企画運営への協力

前年度に引き続き庭園研修会の企画運営業務は中止となった。

II 公園収益事業

決算額 145,297千円（予算額 147,728千円）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業、国立京都迎賓館庭園保全管理業務、深草墓園指定管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的事業及び法人業務の財源とした。

このうち指定管理事業では、緊急事態宣言に伴う閉園期間が長く、まん延防止等重点措置などの影響もあり、利用料金収入、自主事業、及び自動販売機手数料等収益とも前年度水準からさらに減益となった。

なお、これらのうち利用料金減収の一部（閉園期間の赤字分）は京都市から補填を受けた。

ア 自動販売機飲料販売事業

飲料自動販売機の収益はコロナで落ち込んだ前年度と比べても減収となった。

イ 梅小路公園収益事業(貸室、遊戯用電車等)

貸室の収益は、利用の停止期間、時短、利用定員の制限等により前年度と比べても収益が低調となった。遊戯用電車の運行業務は、運休期間、乗車定員の制限の影響を受けた。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

閉園期間の影響を大きく受けたが、その他の期間は、屋外での遊びへのニーズから、堅調な利用があった。

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、内閣府からの受託事業として、造園に携わった造園業者とともに、管理保全指針に基づき、計画的な景観づくりに努めた。

オ 深草墓園指定管理業務

コロナ対策の収支上の影響は他の施設と比べると小さくなく、安全確保のための施設改善、獣害(イノシシ)対策、また、景観向上のため前年度に植樹したサクラ等の育成や、納骨堂東側での「和の花散策路」の整備等に努めた。

京都市主催の秋季・春季追悼式典は、コロナ対策のため前年度に引き続き中止となり、遺族代表主催の式典のみの開催となったが、その模様を収録し、ホームページで動画配信した。

Ⅲ 法人業務

決算額 3,735 千円 (予算額 3,085 千円)

京都市外郭団体中期経営計画(平成30~令和2年度)に基づく経営自立化を果たすとともに、公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し、法人業務を行った。

(1) 理事会・評議員会

理事会を2回、評議員会を1回開催した。コロナ対策のため、いずれも会場(協会本部事務所)とオンラインを併用して行った。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第22回理事会 (オンライン併用)	令和3年 6月3日	令和2年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第23回理事会 (オンライン併用)	令和4年 3月22日	令和3年度事業計画及び収支予算の件 令和3年度資金運用の執行方針及び計画の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第12回評議員会 (オンライン併用)	令和3年 6月28日	令和2年度収支決算の件 理事選任の件、監事選任の件、評議員選任の件

(2) KES環境改善活動の継続と認証

平成 29 年度に再取得し，令和 2 年度中に更新した KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の環境改善活動は、引き続き 4 事務所で省資源、地域清掃及び希少植物保全活動等に組んだ。

(3) 事業推進積立金への積戻し

令和元年度当初に新規事業の円滑な推進のため、事業推進積立金 1,500 万円（1 号財産）を取り崩し流動資産に変更した。当初は元年度～3 年度に 500 万円ずつを積み戻す計画であったが、減収のため 3 年度は 250 万円のみ積み戻した（積戻し累計 1,250 万円）。

事業報告の附属明細書について

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。